

生きるために
大切なことって
何だろう？

「人間学」ではぐくむ。人とともに生きる視点

日常の中で、ふと疑問が湧きあがってくることはありませんか？「私ってどんな人間？」「なぜ自分をわかってくれないの？」「寄りそうってどういうこと？」そんな身近な問いをきっかけに、仏教の教えに基づき、人間を見つめ、人間について考えていくのが第1学年の必修科目「人間学」です。他の大学では学べないこの授業がどのようなものなのか、人間学を教える先生と学生たちとの座談会を通して探ります。

人間とはどんな存在なのか 仏教を通して学ぶ

上野 牧生 講師 ▶ 大谷大学は、根底に仏教の精神があるので、他の大学とはちょっと違います。社会にはさまざまな人がいて、そういう人たちとともに生きる視点を忘れずに学んでほしいという思いから、人間学は、新入生全員の受講が必修になっています。みなさん、人間学の授業を受けてみてどうでしたか？

一條 顯壽 ▶ 受ける前のイメージと違いましたね。文学部 真宗学科で親鸞聖人の思想を中心に学んでいて、最初は人間学で仏教の歴史や知識を知りたいと思っていました。けれど、「人間とはどういう存在なのか」ということを、仏教を通して学んでいく授業だったので驚きました。自分はかなり身勝手に生きてたなっていうことに気づかされました。

肥後 有紗 ▶ 私は国際文化学科で外国との文化の違いを学んでいるんですけど、最初は仏教系の大学だと知らなくて。入学式で初めてそうだったんだと思って、そこからのスタートでした。だから、人間学は新入生全員が必ず受ける授業だと聞いて、お経を読む練習をするのかと思いこんでいたんです。そうしたら全然違って。自分の人生のためになる授業で、いろいろな固定観念が破られて視野が広がりました。釈尊の生涯について学び、人間は生まれ変わるという「六道輪廻」の考え方は特に新鮮でした。死んだら終わりだと思っていたので。

春原 杏利 ▶ 私は、反対に人間学を学びたくて大谷大学に入りました。教育学部ですが、仏教を勉強して子どものころに寄りそう保育士になりたいと思って。実際に学んで思ったのは、人間学が自分を変えてくれたっていうことです。それまでの私はまわりの人と比べていいところがない気がしていて、自分に自信がもてなかった。けれど、「ありのままの自分で生きていい」ということを学びました。まわりから信頼される人間になりたいし、協力しあって生きていきたいと思えるようになりましたね。



肥後 有紗
文学部 国際文化学科
第3学年
長野県・文化学園長野高等学校卒業

一條 顯壽
文学部 真宗学科
第4学年
埼玉県・川越(県立)高等学校卒業

谷口 滉樹
社会学部 コミュニティ
デザイン学科
第3学年
茨城県・

春原 杏利
教育学部 教育学科
第3学年
長野県・伊那西高等学校卒業

上野 牧生
文学部 仏教学科
講師

谷口 滉樹 ▶ 私は社会学部のコミュニティデザイン学科で学んでいるんですけど、高校を途中で転学したこともあって、人と違う道をたどってきた過去が嫌だったんですね。でも人間学の授業で、浄土真宗の先人のことばに衝撃を受けました。「これまでがこれからを決めるのではない。これからがこれまでを決める」ということばです。自信がついたと

うか、新たな見方が生まれました。

「私ってどうなの？」 自分自身を見つめる時間

上野 ▶ 人間学は、教員にとって一番難しい授業です。仏教系の大学だと知らずに入った学生も多くて、そういう人にどう届けるか。仏教って2500年続いていて、人間という

な側面を知ることができたのもおもしろかったです。

谷口 ▶ 最初の授業で先生から「難しく考えず、自分をもう一回見つめ直す」とって伝えられたときに、そうなんだ、と思いました。授業内容も、世界各地の逸話や慣習、戦前に生きた人や釈尊の行動や生き方を学びます。そこから物事を考えたり、これまでの自分と向きあったりしていく授業でしたね。

一條 ▶ 自分についてじっくり考えられる時間で、まわりもみんなそうだから不自然じゃない。むしろ考えていいんだなって思える貴重な場です。大学自体に、そういう「自分と見つめあう」「考える」雰囲気がありますよね。

独自の視点をもって社会へ これからの人生の基盤に

上野 ▶ どの学問も仏教がベースになって、大谷大学の学びが展開されていると思います。他の大学で学んだ人とは違う視点ももてるはず。自分の専門的な学びにもきっと生かしていけるのではないのでしょうか。

春原 ▶ 子どもの目線に立って、子どものころに寄りそえる人になりたいと考えていますが、子どもたちはそれぞれ個性があって、考えが一人ひとり違う。自分らしく生きてほしいという思いで仕事をしていくうえで、人間学の学びは欠かせないと思います。

谷口 ▶ コミュニティデザイン学科の授業では地域のコミュニティと人をつなぐ取り組みなどをするので、人と話す機会が多い。会社の社長さんや商店街のお店の人もおられます。立場が違って、人間学で学んだ、人として当たり前感覚を生かすことでコミュニケーションがスムーズになります。物事の本質に目をこらす姿勢が身についたことも大きいです。

肥後 ▶ 私は国際文化学科なので、広い視野や考え方が必要なんですね。人間学を学んで、多角的にとらえる見方が身についた気がします。いろいろな視点から、日本と海外の良さや改善点を見ていきたいです。

一條 ▶ これからの人生で、どんなときでもきっと、「今の自分」を考えるとときや見つめるときに、人間学で学んだことが柱になるだろうなと思っています。単に知識で終わらず、学んだことを忘れず、これからどう生きていくか、じっくり考えたいですね。

上野 ▶ 大学生の間は、良い意味で悩み、考え抜いてほしい。社会に出ると、どんな仕事をするにしても、いろいろな価値観を持った人と向きあう機会があります。社会の変化にあわせて自分の価値観も更新し続けなくちゃいけない。だからこそ、基礎が大事です。ぜひ、今までになかった視点で人間社会を見る思想文化を、人間学から学んでほしいと思います。

存在を冷静に見つめる視点をもてること
が強みなんですよ。人間の奥深さと恐ろしさ、
仏教はどちらも冷静に見ています。自分
自身を素材にして、「私ってどうなの？」と
いう疑問をもってほしい。それが、物事
を考える出発点になります。

肥後 ▶ そういう意味では、人間学の授業は
本当に、自分を見つめ直す時間でした。これ

までは、見つめ直す作業をしたことがなかつたから、おもしろかったですね。

春原 ▶ そうそう、自分自身を見つめ直すの
と、新たな自分に出あえる。他人としっかり
目をあわせて笑顔でいられるようになって、
ポジティブに考えられるようになりました。
人間は自己中心的に生きるとか、価値のある
なしで決めつけているとか、人間のいろいろ